

もくもく女子会

発行元 株式会社 永谷木材 総務部
〒611-0041 宇治市菟飼町一丁目8
TEL 0774-23-8150 FAX 0774-23-8151
http://nagatani.biz

今回のテーマは行楽の秋・食欲の秋ということで、気軽に行ける☆滋賀県特産☆日帰りでも一泊でも楽しめるのでオススメです！今回は湖東を北へご案内いたします。

近江八幡

日牟禮八幡宮(ひむれはちまんぐう)の鳥居をくぐるとまぎ「たねや」と「クラブハリエ」が目に入ります。クラブハリエ日牟禮ヴィレッジでは工房があるので、カフェでは焼きたてのバームクーヘンが味わえます。いつも行列ができていますが、買って帰るものとは違い絶品です！並ぶ価値はありました。

参道を奥へと進み八幡さまにお参りし、八幡山ロープウェイで山頂へ。山頂は一周することができ、近江八幡の旧城下町や八幡堀・琵琶湖を一望できます。秀次の菩提を弔うための村雲御所瑞龍寺があり、最近始めた朱印帳にご朱印をいただきました。ご朱印はそれぞれ違うのですが、こちらは大変立派だったのでお気に入りです。



金剛苑



藍染



麻のハンカチ

金剛苑は湖東三山の真ん中にあり広大な敷地の中に、古い小学校の建物を移築し、近江上布・秦荘袖の資料の保存、技術の伝承をされています。資料や昔の道具もたくさん展示してあります。

こちらでは藍の生葉染で麻のハンカチ染め体験をしてきました。昔ながらの方法での藍染めをしているのは日本でも屈指だそうです。自分で染めたので思い入れがあり、なかなかハンカチとしては使えませんが、我ながら上出来だと思っています。藍染めは染めの工程等丁寧に説明指導をしていただけるので、是非オススメです。次回は麻のテーブルセンターの機織(はたおり)体験をしたいと思っています。

苑内では四季折々のお庭が楽しめるので季節を感じに行かれるのもいいかもしれません。

多賀大社

古くから「お多賀さん」の名で親しまれる滋賀県第一の大社です。御祭神は伊邪那岐命・伊邪那美命で日本最古の書物「古事記」によると、天照大神をはじめとする八百万(やおよろず)の神々をお産みになりました。このように、命の親神様であることから、古くから延命長寿、縁結び、厄除けの信仰を集めているそうです。

「お伊勢参らばお多賀へ参れ お伊勢お多賀の子でござる」との俗謡があります。式年遷宮で賑わっている伊勢神宮の御祭神である天照大神が伊邪那岐命・伊邪那美命両神の御子だからだそうです。

門前には名物の糸きり餅が売られています。大変美味しいです！超オススメです！日持ちがしないのでここでしか購入できません。伊勢神宮の赤福餅と逆さまでお餅で餡をくるんであり、ほんのり塩味して和菓子の中で一番好きなんです。お店でもお茶付で味わえます。2軒並んでいるので、是非食べ比べてみてください。



糸きり餅



彦根城

彦根城の天守は天守国宝4城のうちの一つです。天守への階段は大変急勾配で傾斜は62度。敵が攻め入っても上から突き飛ばせるようにし、壁にも鉄砲穴があり戦いの城であったようです。

城の北側には池泉回遊式の大名庭園「玄宮園」があります。中国唐時代の玄宗皇帝の離宮をなぞらえたもので、江戸時代初期の庭を現代に伝える名園です。池の周りには近江八景を模し、竹生島や沖の白石を表現するために樹木や岩石も配置されています。池に映る緑が鮮やかでどこを切り抜いても画になる風景でした。



彦根城



玄宮苑

ジュアリルタン



白い建物が目を引きます



クゲルバーム

クラブハリエのパン屋さん。琵琶湖畔に面しているの、琵琶湖の風が吹かれながら食事が出てくるようです。今回訪れたのは朝一番で、前日に長浜で石釜・薪で焼いたパンを買っていたので、「クゲルバーム」のみに入りました。クラブハリエのバームクーヘンが入った「クゲルバーム」。限定いちごバージョンもあったので食べ比べをして楽しみましたがなかなか重量感のある味でした。



長浜の街並み



焼餅そうめん

黒壁黒壁

黒壁スクエアはガラス製品のお店が軒を連ね観光整備された街でした。お店の中に入るとガラスをはじめ色とりどりのオブジェが華麗に並んでいて夢の世界でした。その中で前から目をつけているガラスの万年筆を見つけました。ガラスをねじりペンにしてあり、インクを毛細管現象で吸い上げるようになっています。随分悩みましたが、以前小樽のガラス店にあった物も忘れられず次の機会にと見送ってしまいました。

珍しいと思い食したのが「焼餅そうめん」。焼き餅を煮込んだお汁でそうめん味付けがしてあるのですが、とても懐かしい味がしました。店内は年代を重ねた趣のある造りで、歩きつかれた足を伸ばしてほっこりできるお店でした。

最後まで付き合い下さりありがとうございました。興味を持っていただけただけ場所はありませんでしたらどうか？TVや情報誌でも色々取り上げられ行ったような気になりますが、やはりまずは足を運んでみることで。暑さ寒さの気候とともに風を感じ、石畳や土の踏みしめた感覚。その場で味わった美味しさ感じたままが思い出として積み重ねられるのではと思います。寒くなるまでの清々しい気候の今空を見上げて是非お出かけくださいませ。

